

## 新生児の黄疸おうだん

千葉県小児科医会 はすぬま 蓮沼 りゅうじ 竜司 医師

こども急病電話相談

受診するべきかどうか迷ったら

#8000

毎日夜7:00~翌朝6:00

※相談は無料ですが、通話料はご負担いただきます。

ダイヤル回線・IP電話・光電話・銚子市からは  
☎043 (242) 9939

### Q1 黄疸ってどんなもの？

黄疸とは、ビリルビンという成分が体内で多くなることで皮膚が黄色くなることをいいます。皮膚以外にも白目が黄色くなることもあります。すべての赤ちゃんで見られるもので、そのほとんどが生理的な現象です。黄疸が強くなると核黄疸という病気になり、脳や神経に障害を起こし知能障害といった後遺症を残す可能性があります。その核黄疸にならないようにすることが黄疸に対する治療の目的です。

### Q2 どうして起こるの？

ビリルビンという成分が体内で多くなることで黄疸が強くなります。そのほとんどは生後、赤血球が壊れることによって産生されます。ビリルビンは肝臓で代謝され体外に排出されますが、新生児は代謝の機能がまだ不十分なので蓄積しやすい状態にあります。

多くの場合、生後4~7日にビリルビン量はピークを迎え、その後少なくなります。

しかし、肝臓や胆道(消化酵素が運ばれる通り道)の病気を元々持っていたり、お母さんの血液型や抗体によっては黄疸が強くなる、病的な黄疸である可能性もあります。

また、母乳栄養によって黄疸が強くなる母乳性黄疸というものがあります。ただ黄疸といっても、母乳性黄疸で脳に障害を起こすことはないと言われています。そのため、母乳を止める必要はありません。

### Q3 対処方法は？

医療機関において多くは光線療法といって、特殊な青白い光を浴びることによってビリルビンを水に溶けやすい形に変化させ、尿や便として体外に排出し黄疸を改善させる治療が行われます。重症な黄疸の場合は、輸血を行うこともあります。

### Q4 病院を受診した方がいい黄疸は？

生後1~2週間を過ぎても黄疸が強くなる、生後1か月を過ぎても黄疸が改善しない、うんちが白色に近い(母子手帳の便カードで1-3番)、活気がない、38度以上の熱があるなど当てはまるものがあれば、出産をされた医療機関や近くの小児科に相談をすることをおすすめします。

